

民主化闘争情報

No. 822
2011年4月25日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

今月5日に日貨労から21歳の青年の加入を勝ちとったばかりの貨物鉄産労が、再び九州で組織拡大を果たした。新年度に入って、貨物鉄産労の組織拡大の勢いが止まらない。

日貨労から28歳の青年が貨物鉄産労に加入！ —今年度の新規採用者対策に全力をあげて取り組もう！—

貨物鉄産労九州地区本部では、4月5日、日貨労から保全技術センターに勤務する21歳の青年の加入を勝ちとったが、今度は28歳の青年が日貨労と決別し、貨物鉄産労の仲間に加わった。貨物鉄産労九州地区本部は昨年大会以降、これで5名の組織拡大を果たしたことになる。しかも、5名全員が10代、20代の青年である。もはや、九州の地では、職場の中心となって業務に励んでいる貨物鉄産労に加入することが、青年達の間では「当たり前」になっていると言える。

貨物鉄産労本部は、「今年度の新規採用者がまもなく現場配属となります。日貨労へ先行加入させないため、監視活動を含めた新規採用者に対する組織対策に万全を期しましょう！若い人たちの将来がどのようなものになるのか、そのカギを握っているのはJR連合と貨物鉄産労です。『貨物改革』とは、JR連合・貨物鉄産労に加入することです！」と訴えている。JR貨物で働くすべての仲間が、JR連合・貨物鉄産労に総結集することが、貨物労働者の労働条件の向上と雇用・生活を守ることにつながるのである。

JR東日本ユニオン水戸地本委員長が全国の仲間へ御礼!

JR連合は、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染の影響で深刻な水不足が続いているJR東日本ユニオン水戸地本の被災地組合員に対して、各単組の協力を得ながら支援行動に取り組んでいる。この度、水戸地本佐原委員長より、以下の御礼状が寄せられたので紹介する。



3月11日に発生した東日本大震災において水戸地本に心温まる物資等の援助を頂き心からお礼を申し上げます。

水戸地本内では、組織率の7割方がいわき・相馬地区という状況であり、震災直後からライフラインが寸断されるなど多大な被害となりました。また、組合員においては、津波により全壊が一件、半壊が二件、家の瓦等の損害が組合員の5割弱という状況になっており、福島原発の事故と重なり避難生活を余儀なくされている組合員も10名程度おります。水戸支社全体では、死亡及び行方不明が3名であり、避難生活及び家等の被害はかなりの件数があると会社は言っております。

このような状況のなかで、皆様方からご支援頂いた物資等は、本当にありがたいものであり、組合員一人ひとりが涙ながらに喜んでおります。JR連合傘下の組合員の皆様にお礼を申し上げたいとの声があがっています。

私たち水戸地本は、皆様方のご支援を励みにし、一刻も早い復興に全力を尽くすと同時に組合員一人ひとりに笑顔を取り戻し、JR連合傘下の皆様と共に、JRの安全と職場における労働条件の確立に向け共に頑張る決意であります。本来であれば、皆様の所に出向いてお礼を申し上げなければならないところでありますが、礼状でのお礼になり大変申し訳ありません。

皆様方の今後のご活躍をお祈りします。暖かいご支援ありがとうございました。